

令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和6年8月23日
千葉県農林総合研究センター長

スイカ退緑えそ病の発生について

- 1 病害名：スイカ退緑えそ病
- 2 病原菌：ウリ類退緑黄化ウイルス (*Cucurbit chlorotic yellows virus*; CCYV)
- 3 作物名：スイカ
- 4 発生経過

令和6年8月に、千葉県内のスイカ生産ほ場で、葉脈間の退緑や褐変、葉縁部の黄化や壊死症状が発生した(写真1・2)。生産者の要請を受けた管轄農業事務所が本症状を確認し、農林総合研究センターでRT-PCR法により診断したところ、本県では未発生であるスイカ退緑えそ病と同定された。

本病は、平成21年に、熊本県及び高知県で発生が確認されている。また、本ウイルスを原因とするキュウリ退緑黄化病は、本県では平成23年に初発生し、特殊報を発出した。

- 5 病原ウイルスの性質及び伝染

本ウイルスは、クリニウイルス属に属する。タバココナジラミが本ウイルス感染株を吸汁することにより保毒して、半永続伝播(ウイルス媒介能力は数時間から数日間持続)する。経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしないが、接木では伝染するため台木の感染にも注意する。

- 6 病徴

初期は、葉に不鮮明な退緑斑紋を生じる。斑紋は拡大しながら黄化して、葉脈に緑色を残した黄化葉となる。黄化葉の周縁部や葉脈間にはえそ症状を生じ、葉が枯死することもある。

熊本県が実施した接種試験では、接種部位から上位の葉に病斑が生じ、生長点方向の葉に進展する。

- 7 感染植物

現在までに感染が確認された作物は、スイカのほか、キュウリ及びメロンである。また、雑草のオランダミミナグサ(ナデシコ科)及びクワクサ(クワ科)にも感染が確認されている。

接種試験では上記以外のウリ科・ナス科・アカザ科など、広範な植物に感染することが明らかになっている。



写真1 現地での発生状況



写真2 葉の症状

※写真1・2は管轄農業事務所原図

8 防除対策

(1) 発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋等で密閉して枯死させてから適切に処分する。

また、摘除した側枝や摘葉などの作物残さは野外に放置せず、同様に処分する。

(2) タバココナジラミ（写真3）の防除

ア 育苗期にタバココナジラミの防除を徹底し、本虫やウイルス感染株を本ぼへ持ち込まない。

イ 育苗期及び定植時にタバココナジラミに登録のある薬剤で防除し、生育初期の感染防止に努める。

ウ ほ場内及び周辺の雑草はコナジラミ類の発生源となるので、防草シートを設置するなど、除草を徹底する。また、ウリ科野菜は伝染源となる可能性があるため、スイカの育苗ハウスやほ場周辺では作付けしない。

エ コナジラミ類は多発すると防除が困難となるため、黄色粘着板をほ場内外に設置し、成虫を捕殺するとともに、発生初期に薬剤防除する。

オ 薬剤の選定にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。また、ミツバチや天敵昆虫を利用している場合は、影響日数に注意して薬剤を選定する。

カ 散布むらがあると薬剤の効果が低くなるので、植物体の全身に薬剤が十分にかかるよう丁寧に散布する。

キ 栽培終了後は、雑草も含めてハウス内の全ての植物を抜根した状態でハウスやトンネルを密閉し、完全に枯死させてタバココナジラミを死滅させる。

ク 施設栽培では、以下の点にも注意する。

（ア）タバココナジラミの施設内への侵入及び保毒虫の逸出を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張する。

（イ）ネットやフィルムが破損していないか点検し、必要に応じて補修する。

（ウ）施設の入退室時にはコナジラミ類が衣服や資材に付着していないか注意する。



写真3 タバココナジラミの

成虫・蛹・幼虫・卵

※ 写真3は千葉県農林総合研究センター原図

・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

